

2015年(平成27年)9月27日(日曜日)

社会総合

山形新聞

米沢から YUKI ANDON

深山和紙(白鷹) 光ゆかしく

米沢市内の企業でつくる「有機EL照明実用化研究会」は、有機ELと白鷹町の深山和紙を組み合わせた、あんどん「YUKI ANDON(ゆき・あんどん)」を開発した。価格を従来品の半分以下の1台1万9800円(税別)に設定。次世代の明かりを手軽に楽しめる商品として11月13日から550台を限定販売する。

有機EL研が開発

低価格 11月、550台限定発売

表らが記者会見して発表した。「YUKI ANDON」は高さ28センチ、幅、奥行き9・8センチ。外側のシェードが深山和紙製で、「和」を演出するインテリア照明などとしての活用を想定。絵柄はヒガンバナや花笠、山並みなどを留意する。取り換え可能で、単体でも2900円(税別)で販売。将来的にはデザインの注文も受け付ける計画だ。

明るさは2段階調節式。ろうそくのような揺らぎを出すこともできる。リチウムイオン電池内蔵で持ち運びが可能で、充電はUSBケーブルを使う。

有機ELパネルは東北パイオニア(大蔵市)が製作。本体はタカハタ電子(米沢市)が手掛けた。低価格は材料のロスが少ない印刷技術で、パネルを生産することなどで実現。寿命も従来の3倍以上の3万時間を達成した。

和田代表は会見で「産学官の連携によって量産化の第一歩を踏み出すことができた。米沢、山形から世界に発信したい」と強調した。小売店や量販店での販売を予定。研究会の会員企業が納入体制を整える。問い合わせはタカハタ電子0238(36)0013。



有機ELと深山和紙を組み合わせた「YUKI ANDON」
米沢市・吉亭